


令和元年度
外国人教員短期招へいプログラム実施報告書

令和 2年 3月 30日

三重大学長 殿

招へい期間における実施報告書を、添付のとおり提出いたします。

1. 被招へい者 所属・氏名 ソウ ヨニ博士：インディアナ大学ブルーミントン校客員講師 Dr. Younei Soe, Visiting Lecturer, Indiana University, Bloomington School of Informatics, Computing, and Engineering
2. 受入研究者 所属・職・氏名 国際交流センター・准教授・栗田 聡子
3. 招へい期間 令和元年 6月 29日 ~ 令和 元年 7月 5日
4. 活動実施の内容とその成果 ◆活動内容 インディアナ大学（米国）の情報学、情報工学系の大学院で教えているソウ博士を迎え、全学対象の教養教育の授業と Tri-U セミナー&シンポジウム 2019 に参加予定の学生を対象に講義を実施すると共に、全学の学生と教職員を対象に特別講演会を開催した。ソウ博士は韓国籍であるが、20 年以上アメリカに滞在し、学部専攻は英語教育であったことから英語はネイティブ並みであり、授業のパフォーマンスが極めて高い。博士が所属する院（School of Informatics）は世界ランキング（情報学系）で常に 5 位以内に入っているトップスクールである。 ①特別講義： 日時：7月1日（月） 16:20~17:50（1コマ） 教養教育開放授業「メディアと日本」の枠内 テーマ：“New Media & the Freedom of Expression” 参加者：33名（留学生・学部生・大学院生）  参加した学生の感想： 「今まで学んだことがなかったが、メディア・リテラシーの重要さがわかった」 「学生とのコミュニケーションがとても上手でひきこまれた」「思ったよりも英語がわかってうれしかった」他

②講演会

日時：7月3日（水） 16:20~17:50（1コマ）

テーマ：“Internet, Political information efficacy, and Knowledge Integration”

参加者：45名（留学生・学部生・大学院生）



参加した学生の感想：

「プレゼンの仕方が素晴らしくて勉強になった」「三重大では学べないようなテーマで勉強になった」「アメリカの大学で勉強留したくなった」「もっと英語を勉強しようと思った」等

③特別授業（計7時間）

「論文を英語で書く/魅力的なプレゼンテーション」

Tri-U セミナー&シンポジウム 2019 参加者：13名（学部生・大学院生）

7月2日（火） 15:00~19:00

4日（木） 15:00~18:00

5日（金） 15:00~18:00

*7/2~5の間で個人指導あり（メール & Face to Face）



参加した学生の感想：

「論文の Abstract を何回も直してくれて有難かった」「とても分かりやすい英語で助かった」「全て英語での授業なので、本番の準備として気が引き締めることができた」等

◆成果と考察

授業や講演後に実施したアンケートをもとに、ソウ博士から学生らが享受できたこと、影響を受けた点を以下のとおり記す。

① メディア・リテラシー教育における最前線の講義と研究

特に社会主義や共産圏からの留学生にとって、はじめて学ぶ「表現の自由・知る権利」についての講義は極めて興味深かったようである。三重大の学生にとっても、情報学の分野で世界的にトップクラスの大学で教えられているメディア・リテラシーの授業は刺激的だったとの声が多かった。

② 学生の注意を引き込む卓越した話術とコミュニケーション能力

米国の大学では「授業は舞台」「教員は演者」という考え方を持つ教員が多く、学生も教員に高いパフォーマンスとコミュニケーション能力を期待する。特にメディアや情報を扱う学部・大学院ではその傾向が高い。ソウ博士の場合、もともと話し上手（好き）なのであるが、AI(授業助手)時代を含めて少なくとも10年以上は「(米国の)大学生の集中力を高め、興味をひき、理解させる」ための話術を得るために悩み、試行錯誤しながら努力してきたとのこと。学生だけでなく、英語による授業を実施している教員にとっても、ソウ博士の講義手法は学ぶ価値があるように思う。

③ 米国の大学(院)からの出前授業(英語)

当然であるが、グローバルな時代において英語能力は不可欠である。留学に対する興味の有無は関係なく、英語による授業を受け、理解をし、発言できる機会を与えることは大学機関として重要である。英語の面だけでなく、世界の最前線で教えられている授業内容を留学することなく受けることが出来る機会は学生にとって意義が大きい。今回は、ユネスコも推進する「メディア・リテラシー」を中心とした講義であったが、日本人学生だけでなく、それまで「知る権利」について学ぶ機会のなかった留学生にとっても貴重な学びの機会であった。

④ 社会・世界が抱える課題

ソウ博士が提示した「メディア・リテラシー」の話題の中で、個人情報や政治メディアを含む社会的問題が含まれていた。参加学生らは、普段の日常生活ではほとんど考えることのない問題の存在に気が付き、考えることの必要性を知る機会となった。

⑤ 留学へのモチベーション

参加者は、長期の交換留学や大学院留学に興味がある学生、すでに留学を経験した学生が多く見られた。正規の交換留学に対して英語能力に不安を感じていた学生らも、予想よりもソウ博士の講義内容が理解できたことで自信を高め、さらにモチベーションが高まったようである。

⑥ 英語によるアカデミックな指導(Tri-U)

招聘者はTri-Uセミナー&シンポジウムで英語論文とプレゼンテーションの授業をしているが、参加者の大半が日本人であることもあり、日本語を使用してしまう事が多い。だが、ソウ博士の講義と個人指導はすべて英語であったことで、参加者は本番に向けて気が引き締まったようである。

以上により、世界的に評価の高い大学院から外国人教員を招聘したことで、英語を勉強する必要性だけでなく、世界が抱える課題について考える等の機会を与えることができた。当初の予測以上に、有意義な結果となった。

◆今後について

来年度はコロナで予測ができないが、今後は学生を対象とした授業だけでなく、「英語で教える授業」をテーマとしたFD研修の講師としてソウ博士を含めた外国人教員を招聘することも検討していきたい。

